

秋田高専における「令和4年度 国際交流」の記録および今後の展望 — 「国際交流」における実践、問題および今後の方向性についての一考察 —

小林 貢

Records of 2022 and Future Prospects of 2023 International Exchange Program at Akita National College of Technology — A consideration of practical examples, potential problems, and future directions for the 2023 International Exchange—

Mitsugu Kobayashi

(令和5年1月23日受理)

This paper aims to suggest the future directions for the 2023 International Exchange of NIT, Akita College. The key part of the goal is the Global Engineer Program of NIT-Akita, which is our plan to send selected 16 5th grade students abroad per year, a 5-month internship, in their final term at NIT-Akita. After all, we expect to send 2-4 of our students to each partner institution, and the first batch will be sent in 2023 fall.

In order to achieve the objectives of the Global Engineer Program of NIT-Akita, that is, overseas technical training, it is necessary for us to strengthen the following three points.

To increase the number of international exchange students accepted, specifically, to increase the number of international exchange partner universities and students who desire overseas technical training.

To expand resources, that is to say, strengthen the International Exchange Committee, establish the International Exchange Center, and improve the dormitory accommodation facilities for student acceptance.

To enhance the fields of international exchange research, in other words, strengthen the acceptance of dispatches by promoting green energy research including offshore wind power generation.

Aiming for these goals, we hope to continue international exchange activities in 2023.

Keywords: the Global Engineer Program of NIT-Akita, Green energy, Offshore wind power generation

1. はじめに

筆者は新型コロナウイルス感染症が流行し始めた令和2年度および3年度においては、校長補佐・寮務主事として寮務を担当していたが、諸般の事情により、令和4年度においては校長補佐・国際交流担当としての業務を担当することとなった。実際は引継ぎのため、令和4年2月から国際交流業務を開始しており、令和4年2月～3月の期間は、寮務および国際交流の両業務を行っていた。この論文においては、「国際交流」における実践、問題、および今後の方向性についての記録・反省・展望をまとめることにより、「令和5年度国際交流」における海外技術研修に資することを目的としている。

2. 「令和4年度 国際交流」の記録

2-1. 令和4年4月13日（水）記録

2-1-1. 学生の秋季海外渡航可否についてはコロナ状況（海外安全レベルが2以上など）のため、令和4年度に予定していた海外技術研修派遣を実施しないという結論となった。担任の先生方に派遣中止となった学生の選択科目等の取り消し等の指導を、卒業研究および特別研究の指導教員の先生方には派遣中止となった学生の研究指導についてお願いした。

2-1-2. 3年次編入留学生の2名が3月25日に入寮した。フランスからの短期留学生は辞退。フィンランドからの短期留学生2名については、COE（在留資格認定証明書）を申請した。COEの交付後、本校

で ERFS エルフス「外国人新規入国オンライン申請」を行い、留学生による査証（ビザ）申請、フィンランド在外公館でのビザ発給、留学生による MySOS（入国者健康居所確認アプリ）およびデジタル庁の Visit Japan Web Service への登録。出発前 72 時間以内の検査を行い、羽田空港、成田国際空港、などの 5 指定空港への 6 月 1 日の入国を予定。入国後、MySOS を使用した空港検疫としての「ファーストトラック」検査を行い、特定ワクチン 3 回接種による、待機なしの行動制限解除を調整予定。ビザ発給のため、これまでと異なり、合計 100 日程度の日本滞在を予定。

2-1-3. メキシコ 2 大学とのオンライン交流について 図 1：オンライン交流資料

メキシコ 2 大学とのオンライン交流について

国際交流委員長 2022 年 4 月 6 日

協定校であるメキシコ・グアダハラ大学(Universidad de Guadalajara)および同校と連携して授業「Business in Asia-Pacific」を開講しているアナワク大学(Universidad Anáhuac)とオンライン交流イベントを行った。

日時: 2022 年 3 月 23 日 (水) 9:00-10:20 (日本時間)

手段: Zoom による遠隔会議

秋田高専側では、E 系オープンスペースに会場を設け、学生を集めた。

参加者:

秋田高専側: (学生) 海外技術研修希望者 8 名、留学生 3 名
(教員) 国際交流委員会 武井前委員長、ティラビ委員、カラベス委員、小林

メキシコ側: (学生) 2 大学の Business in Asia-Pacific 受講者達
それぞれ概数で 30 名を超える程度
(教職員) Assoc. Prof. Héctor Rangel Ramirez (U. Anáhuac)
Mtra. Alma Eduwigs Rangel Garcia (U. Guadalajara)

進行:

Brief introduction of the groups: NIT-Akita College, Anahuac University and CU Lagos (10 min)
各校代表教員より簡単な挨拶と紹介を行った。(秋田高専からは武井前委員長)

- Short presentation about Mexican culture: Anahuac and CU Lagos (10 min)

- Short presentation of Japan: traditions, interest, way of living, vision, business culture, etc: NIT-Akita (10 min) 秋田高専からは、日本に関するさまざまな事実、食文化、竿灯まつりについて発表

2-1-4. 4 月 4 日付の全教員宛のメールによる「研究者紹介（日本語および英語）の作成について（照会）」の提出期限が 5 月 10 日（火）であることを確認。

2-2. 令和 4 年 5 月 11 日（水）記録

2-2-1. 校長が指名する国際交流実務を担当する教員として機械系 柳町拓哉教員を国際交流委員に任命。

2-2-2. 海外協定校である A 大学とのインターンシップについての協議。

報告・連絡事項・各委員会報告

2-2-3. 行事について

- (1) 第 1 回国際交流委員会は 5/18(水) に開催予定
- (2) マレーシア政府派遣 3 年次編入女子留学生は 5/21(土) 入国、5/22(日) に本校に受入予定。
- (3) 短期留学生（フィンランド）の受入については

予定 6 月 8 日にフィンランドからの短期留学生 2 名を本校に受け入れる予定。閉寮中の 8 月 11 日から 9 月 1 日においては秋田のホテルに滞在し、9 月 2 日の研究発表会終了後に東京へ移動する予定。

2-2-4. 研究者紹介（日本語および英語）は、第 1 回国際交流委員会で協議予定。

2-3. 令和 4 年 6 月 1 日（水）記録

2-3-1. 日本語および英語の留学生用の Academic Calendar（学事暦）については第 1 回国際交流委員会において協議し、ホームページに掲載予定。

2-3-2. Researcher Introduction（研究者紹介）については、第 1 回国際交流委員会において教員全員の専門分野について協議。ホームページへ掲載予定。

2-3-3. 「秋田工業高等専門学校 危機管理マニュアル（国際交流編）（案）」については、第 1 回国際交流委員会において協議。学生・教職員等の派遣前における危機管理、派遣後・危機発生時における危機管理、危機に遭遇した場合の対応を含めた渡航者が行うべき危機管理、外国人留学生等の受入れ時の危機管理、在学中の危機管理について、秋田工業高等専門学校危機管理規則および本校の危機管理マニュアルとの整合性を考慮し、フェーズごとの危機管理について述べたもの。資料として巻末に、危機管理体制（国内外連絡網）、海外渡航届、承諾書を添付。

2-3-4. 令和 4 年度東北・北海道地区国際交流担当者協議会については、第 1 回国際交流委員会において今年度本校が主催する同協議会について、昨年度と同様に Microsoft Teams を使用した Web 会議とすることを決定。他高専とその方向で調整を行う。

2-3-5. 海外協定校である A 大学とのインターンシップについての継続協議。

2-3-6. 国際教養大学から本校教員に対面での English Village を 9 月から 11 月に実施する旨の連絡。本校はこれまで対面での English Village に参加してきているため、新型コロナウイルス感染症対策ができる場合の学生の参加について協議。

2-3-7. 行事について

- (1) 第 1 回国際交流委員会 5/18(水) に開催。
- (2) マレーシア政府派遣 3 年次編入女子留学生は 5/22(日) 受入完了。
- (3) 短期留学生（フィンランド）の受入については COE 遅延ため 6 月入国予定。

2-3-7. 今年度の海外技術研修の中止および昨年度のシンガポール語学研修の中止の補完事業として 4 年生、5 年生、専攻科生を対象としたオンラインでの語学研修（5 日間：実施可能の場合には 9 月に実施。

推定経費：約 47,700 円の個人負担、2021 年 12 月 17 日確認) が可能であるかについてのアンケートを学生用メーリングリストを使用して実施。応募期限は 5 月 31 日(火)で、14 名以下の希望学生のため、先方への日程および経費についての打診を行わず。

2-4. 令和 4 年 7 月 18 日(水) 記録

2-4-1. 行事について

(1) 短期留学生(フィンランド)の受入については、6 月 13 日(月)に男性短期留学生 D の指導担当：電気・電子・情報系 竹下教員、男性短期留学生 F の指導担当：電気・電子・情報系 カラベス教員が受入。

(2) フィンランド留学生成果発表会

9 月 6 日(火) 午前 11 時から会議室 A で実施予定です。両名は 9 月 7 日(水)に東京へ移動する予定。

2-4-2. Academic Calendar(学事暦)および Researcher Introduction(研究者紹介)の HP 掲載については、HP の英語欄に掲載完了。

2-4-3. English Village については、国際教養大学から対面での English Village 実施について連絡があり、本科 2 年生に参加希望調査を実施し、2M 8 名、2E 6 名、2C 12 名、2B 3 名、合計 29 名の参加希望がありましたので、9/9(金)から 9/11(日)の実施予定。

2-4-4. 秋田工業高等専門学校 危機管理マニュアル(国際交流編)については、前回の提案させていただきました(案)につきまして、特にご意見ございませんでしたが、別表 5 様式 1 を「海外渡航届(学生)」とし、様式 1-2 として「海外渡航届(教職員)」を追加いたしました。それに関連した内容変更および再度精査したことが赤字の変更箇所です。資料として巻末に、危機管理体制(国内外連絡網)、海外渡航届(学生)および(教職員)、海外インターンシップ 承諾書、シンガポール語学研修 承諾書も添付しております。海外渡航届は本校の事業として実施する業務に関連したことについては、学生は 97 頁から 98 頁の「海外渡航届(学生)」を教職員は 99 頁から 100 頁の「海外渡航届(教職員)」をリスクマネジメントのため、事前に総務課総務係にご提出いただくこととなりました。海外渡航届のファイルは、サイボウズのトップページ→ファイル管理→総務課総務係→国際交流関係→秋田高専危機管理マニュアル(国際交流編)として掲載されているので、学生の海外インターンシップ等および教職員の海外出張等の際には総務課総務係への提出をお願いします。

2-5. 令和 4 年 9 月 14 日(水) 記録

2-5-1. 行事について

(1) フィンランド留学生成果発表会 6 月 13 日(月)に来校した男性短期留学生 D および男性短期留学生 F のフィンランド留学生成果発表会を 9 月 6 日(火) 午前 11 時から会議室 A で実施しました。翌日 9 月 7 日(水)に二人は東京に移動し、短期留学生 D は 9 月 9 日(金)に、短期留学生 F は 9 月 11 日(日)に帰国した。

2-5-2. English Village については 2E 学生 1 名が当日欠席したため、2M 8 名、2E 5 名、2C 12 名、2B 3 名、合計本科 2 年生 28 名が 9/ 9(金)～ 9/11(日)の国際教養大学における English Village にティラビ先生の引率で参加しました。令和元年度以来の 3 年ぶりの対面での English Village でした。前後のアンケートによると、英語学習に関して、本校参加学生の不安レベルが低下し、学習意欲レベルが上昇し、英語学習を楽しいと認識するレベルが上昇していることで、今後の英語学習に好影響を及ぼすと考えられます。来年度以降も対面での English Village に可能であれば参加の予定

2-5-3. 令和 4 年度高校生留学支援事業(短期派遣)の内定について

8 月に令和 4 年度国際文化交流促進費(高校生国際交流促進費)補助金「国費高校生留学促進事業」(文部科学省総合教育政策局)に基づく令和 4 年度高校生留学支援事業(短期派遣)(秋田県高校教育課)120 万円(6 万円×20 名・本科 3 年生を令和 4 年度中にシンガポール ポリテクニクに派遣予定)が本校として初めて内定した。今後、シンガポール語学研修を募集予定

2-5-4. 韓国・永進専門大学校との MOU 締結について

7 月に韓国・大邱(テグ)にある私立の 2 年制、3 年制、4 年制大学である永進(ヨンジン)専門大学校との MOU を文書で締結いたしました。韓国では大学を大學校(テハッキョ)と言います。ヨンジン専門大学校との MOU 締結の最大のメリットは、これまで、海外技術研修における協定校には建築についての受入校がありませんでしたが、永進(ヨンジン)専門大学校には、2 年制の建築工学科や 3 年制のインテリアデザイン科があり、今後も交渉が必要ですが、建築についても海外技術研修の道は拓かれたと思われれます。永進(ヨンジン)専門大学校には、他にもコンピュータ情報系列、AI 融合機械系列、半導体系列、電子情報系列、新再生エネルギー電気

系列、等があり、永進専門大学校は宇部高専とも協定を結んでいる。

2-5-5. 2023年1月以降、今年度専攻科1年学生をフランスへ派遣しないことについて

7月に八戸高専から2023年1月以降の今年度におけるフランス派遣の学生募集がありましたが、専攻科長と相談しましたところ本校のスケジュール上、専攻科1年学生をフランスに今年度派遣することが困難であるという結論に至った。

2-5-6. 海外渡航届(学生)の提出について

3E学生1名がオーストラリアへの海外渡航届(学生)を総務係に提出しましたので、国際交流委員会メール審議で同地の危険情報および感染症危険レベルを勘案して、親戚宅で十分な安全対策をとることと帰国後の健康観察をすることを前提に渡航を許可しました。海外渡航届(学生)は事前の届け出が必要となっておりますので、学級担任の先生方におかれましては、夏休み明けの特別活動の時間に、再度の指導をお願いします。

2-6. 令和4年10月12日(水)記録

2-6-1. 行事について

(1) 第2回国際交流委員会 10月4日(火)16:00～会議室Aで開催いたしました。

(2) 令和4年度留学生地域交流事業「第三の故郷を見つける農家民泊2022」

10月22日(土)～23日(日)仙北市での農業体験ツアーで本校から4B留学生1名、3B留学生1名および5C日本人学生1名が参加予定です。

(3) 「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」に関する説明会

10月24日(月)および25日(火)の14時30分～15時00分に両日とも同じ内容でテクノコミュニティにおいて実施予定です。9月21日付メールで第3学年学級担任の先生方に「説明会」の開催について周知依頼をしておりますので、担任の先生方におかれましては各クラスの「説明会」「参加希望学生へ周知いただきますようお願いいたします。

(4) 海外技術研修説明会

10月26日(水)14:30～15:30 大講義室で開催予定です。9/7付メールで第4学年学級担任の先生方に「海外技術研修説明会の開催について」の周知依頼をしておりますので、担任の先生方におかれましては、「説明会」参加希望学生へ周知いただきますようお願いいたします。

(5) 令和4年度東北・北海道地区国際交流担当者協議会

本校が開催担当校として、11/11(金)14:00～17:00: Microsoft Teamsを使用したWeb会議を開催します。

2-6-2. 「秋田工業高等専門学校 危機管理マニュアル(国際交流編)」の一部変更について

10月4日(火)第2回国際交流委員会および10月5日(水)運営会議において審議いたしまして、ページの様式2-1「海外留学誓約書」を加えて、ページの様式2-2「秋田工業高等専門学校 海外留学参加承諾書および同意書」を「海外留学誓約書」を元に加筆修正こととなりました。それに関連した部分を変更することとなりますので、よろしくお願い致します。

2-6-3. 令和4年度シンガポール語学短期留学派遣プログラム 派遣資格基準の一部変更について

10月4日(火)第2回国際交流委員会および10月5日(水)運営会議において審議いたしまして、令和4年度シンガポール語学短期留学派遣プログラム 派遣資格基準を変更します。

旧) 英検準2級・2級を取得(ただし、英検準2級一次試験合格者を含む)の本科3年生

新) 英検準2級・2級を取得(ただし、英検準2級一次試験合格者を含む)もしくはTOEIC Test 350点以上、取得の本科3年生

2-7. 令和4年11月2日(水)記録

2-7-1. 行事について

(1) 「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」に関する説明会

10月24日(月)および25日(火)の14時30分～15時00分に両日とも同じ内容でテクノコミュニティにおいて実施しました。第3学年の参加学生は11名でした。最低人数は15名ですので、引き続き募集を行います。

(2) 海外技術研修説明会

10月26日(水)14:30～15:30 大講義室で開催いたしました。第4学年の参加学生は65名でした。終了後、4年生参加学生にも「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」に関する説明会を実施しました。

(3) 令和4年度東北・北海道地区国際交流担当者協議会

本校が開催担当校として、11月11日(金)14:00～17:00: Microsoft Teamsを使用したWeb会議で植松校長先生からご挨拶をいただき、開催します。

(4) 韓国 永進専門大学校 本校訪問予定

12月13日(火)午前10時30分後(金)に韓国の

永進（ヨンジン）専門大学の崔宰榮（チェ・ジェヨン）総長および他3名教員が本校を訪問予定。

2-7-2. 2023年度(R5)JASSO 海外留学支援制度（協定派遣・受入）の募集について

10月19日（水）が申込締切だったため、例年の内容を参考に2023年度(R5)JASSO 海外留学支援制度（協定派遣・受入）の募集について申込を行った。

2-7-3. 令和4年度高校生留学支援事業（短期派遣）の内定辞退について

「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」について、令和4年度高校生留学支援事業（短期派遣）の要件である2週間滞在を基に見積を取りましたところ、経費が50万円を超えることとなりました。これは申し込み後にウクライナにおける戦争のより、燃料サーチャージが上昇したためです。調査を行ったところ2週間滞在希望学生は少数でしたので、1週間滞在のプランで募集を行うこととし、内定を辞退します。

2-8. 令和4年12月14日（水）記録

2-8-1. 行事について

(1) 「外国人による日本語スピーチ・コンテスト」
11月6日（日）に秋田県生涯学習センターで開催された、秋田ユネスコ協会主催の「外国人による日本語スピーチ・コンテスト」に、本校の3E留学生2名が参加し、1名が優秀賞を、もう1名が奨励賞を受賞しました。

(2) 令和4年度東北・北海道地区国際交流担当者協議会 11/11（金）開催

資料における4. 報告事項 (1) フランス IUT の制度変更について、函館高専から報告があり、フランスにおいては、リール短大以外の受入機関においても宿泊施設を確保するのが難しい状況であるとの報告がありました。

(3) 「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」および「海外技術研修」の応募締切 11/18（金）
「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」については8名の応募がありました。「海外技術研修」については、3名の応募がありました。「海外技術研修」申込学生のスピーキング・トレーニングやCVおよびMotivation Letter作成について予定しています。

(4) 韓国 永進専門大学 本校訪問 12/13（火）
午前10時30分～午後1時30分

韓国 永進専門大学の崔宰榮総長を含む教員4名が本校を訪問し、本校の植松校長を含む教員5名でMOU締結式、会談、会食をいたしました。

2-8-2. 「令和4年度シンガポール語学短期留学派遣プログラム」の中止について

「参加申込書」を11月18日（金）午後4時までに総務課総務係へ提出することになっておりましたが、燃料サーチャージの高騰により、提出したのは、3M1名、3C7名、の合計8名でした。シンガポール・ポリテクニクが英語研修プログラムを実施するのは15名以上ですので、プログラムは中止となりました。

2-8-3. 2023年度前期・短期留学生の受入について

2023年度前期・フィンランド・トゥルク応用科学大学からE系への学生受入についてG高専から依頼がありました。また、2023年度前期・フランスIUTからE系への学生受入についてJ高専から依頼がありました。受入について寮務主事、E系長と慎重に協議し、フィンランド・フランスから各1名、合計2名の受入が妥当であるとの結論となりました。

2-9. 令和5年1月11日（水）記録

2-9-1. 行事について

(1) 「トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム学生向け説明会」の実施について

12月22日（木）午後にオンラインで「トビタテ！学生向け説明会」があり、本科1年1名、2年5名、3年1名の7名が参加しました。

(2) 令和5年度 海外インターンシップ事前研修「TOEIC スピーキングテスト対策」日程について

「TOEIC スピーキングテスト対策」指導は令和5年度海外技術研修参加希望学生3名および将来的に海外研修に参加したい学生3名の合計6名を対象に1月より、菅原隆行教員とティラビ教員が担当し、3月3日に「TOEIC スピーキングテスト」を実施する予定。

(3) 3. Overseas Technical Training について

CV および Motivation Letter の指導については、TEAMS により今月以降にカラベス教員が担当する予定。

(4) フィンランドへの2023年秋の派遣について

現在、令和5年度海外技術研修参加希望学生1名がフィンランドへの派遣について検討中であり、派遣を希望する場合には2月17日（金）までに、仙台高専に連絡する予定。

(5) 「海外技術研修への風力発電の活用について」

各系の研究テーマおよび担当教員
各系からの標記研究テーマ2件および各担当教員の資料は以下の通りです。

機械系

・研究テーマ 1. 「ブレードから生じる低周波騒音の低減」

担当教員：野澤正和教員

・研究テーマ 2. 「風力発電機における接着剤の破壊特性：き裂成長のダイナミクス」

担当教員：柳町拓哉教員

電気・電子・情報系

・研究テーマ 1: 「機械学習による風力発電機の最適位置の解析」

担当教員：カラベス アンドラデ エドアルド教員

・研究テーマ 2: 「風力発電所周辺における将来の気象状態の推定」

担当教員：佐藤貴紀教員

物質・生物系

・研究テーマ 1: 「スプレー法を用いた酸化タンゲステン膜の調製」

担当教員：西野智路教員

・研究テーマ 2: 「水電解による水素製造のためのナノ触媒の開発」

担当教員：趙明 教員

土木・建築系

・研究テーマ 1: 「風力発電と空間デザイン（まちづくり，都市計画，耐震性能）に関する研究」

担当教員：空間デザインコース全教員

・研究テーマ 2: 「風力発電と土木環境（地盤，風，水環境）に関する研究」

担当教員：国土防災システムコース全教員

3. 「令和4年度東北・北海道地区国際交流担当者協議会」における報告内容

3-1. 学生を中心とした海外との交流を推進する取組

本校の「国際交流」の特色ある取組として挙げられることは、推進中の“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ H30 採択事業「5ヶ月間の長期海外技術研修を核としたくさび型グローバルエンジニア育成事業」であり、5年後期の海外留学を卒業研究相当とする「海外技術研修」として設置していることである。これまでのグローバル・エンジニアプログラム「海外技術研修」コース生への事前研修については以下の通りである。

【令和2年度】R2.12. 創造システム工学科1期生4年生から8名が加入。R2.12～R3.2 TOEICスピーキングテスト対策授業（全8コマ）。R2.12～R3.4

留学先選択、履歴書、志望理由書添削指導（Teams活用）からなる事前研修実施。R3. 1. JASSO 奨学金

（協定派遣）採択（ただし、渡航は R3.6 に断念）。

【令和3年度】R3.12. 第2期生7名が加入。R2年度と同様の事前研修を行った。JASSO 奨学金（協定派遣）採択（ただし、渡航は R4.4 に断念）R4. 3. メキシコ2大学とのオンライン交流。

【令和4年度】R4. 8. 令和4年度国際文化交流促進費（高校生国際交流促進費）補助金「国費高校生留学促進事業」（文部科学省総合教育政策局）に基づく令和4年度高校生留学支援事業（短期派遣）（秋田県高校教育課）120万円（6万円×20名・本科3年生を令和4年度中にシンガポール ポリテクニクに派遣予定）が内定（ただし、渡航は R4.12 に断念）。R4. 9. 国際教養大学における対面での English Village 本科2年生28名が参加。R4.10. JASSO「シンガポール語学短期留学派遣プログラム」に関する説明会を10月24日（月）および25日（火）に実施。海外技術研修説明会を10/26（水）に実施。JASSO 奨学金（協定派遣）を申請。R4.12 第3期生3名が加入。

以下は交渉中の大学を含む「海外技術研修」における学生派遣ができる可能性のある海外大学である。

図2：学生派遣候補海外大学

地域	国	機関名	機械	電気情報	物質生物	環境建設	HPのURL, その他
アジア	韓国	京東大学校		○		○	https://kduniv.ac.kr/eng/ 建築○
		永進専門大学校	○	○			http://www.yju.ac.kr/ 建築○
	ベトナム	中央地域水資源経済工科大学				○	http://ckt.edu.vn/
		チュイロイ大学				○	http://en.tlu.edu.vn/
	タイ	泰日工業大学	○	○			https://www.tni.ac.th/home/
		カセサート大学	○	○		○	https://www.ku.ac.th/
	シンガポール	シンガポール・ポリテクニク	○	○	○	○	https://www.sp.edu.sg/
		テマセク・ポリテクニク	○	○	○	○	https://www.tp.edu.sg/
ヨーロッパ	フィンランド	トゥルク応用科学大学	○	○	○	○	https://www.tuas.fi/en/
		メトロポリア応用科学大学	○	○	○	○	https://www.metropolia.fi/en/

地域	国	機関名	機械	電気情報	物質生物	環境建設	HPのURL
ヨーロッパ	フランス	リール技術短期大学	○	○	○		https://www.iut-a.univ-lille.fr/en/home/
		リトラルコートバル技術短期大学	○	○	○		http://www.iut.univ-littoral.fr/
		ブロア技術短期大学	○	○	○		https://iut-blois.univ-tours.fr/
		ランス技術短期大学		○			http://www.iut-lens.univ-arts-et-metiers.fr/
中南米	メキシコ	グァナファト大学	○	○			https://www.ugto.mx/
		グアダハラ大学		○	○		http://www.udg.mx/en

3-2.国際コミュニケーション力育成（英語力、マインドなど）の取組について

3-1-1. 英検受験の推進

本校は本科3年生までの学生に英検の受験を奨励しており、R3年度英検合格者数は、令和3年度英検合格者は、準1級1名、2級12名、準2級123名、3級1名の合計137名であった。また本校は今年度より本科1年生を対象としてパソコン、タブレット、携帯電話でもアクセスできる e-learning『スタディサプリ』を購入させており、スタディサプリ「英検準2級対策講座」を全員に夏休み課題とした。尚、本科1年生の英検準2級にすでに合格している学生には、スタディサプリ「英検2級対策講座」を夏休み課題とした。シンガポール語学研修（本科3年生対象）参加応募資格は英検準2級以上である。

3-1-2. TOEIC スコアの推移

本科4学年 TOEIC スコア学年平均は、令和元年度は457点（500点以上46名、全国高専4年生平均351点）、令和2年度は478点（500点以上59名、全国高専4年生平均364点）、令和3年度は494.9点（500点以上64名、全国高専4年生平均375点）となっており、令和4年度は本科4学年 TOEIC スコア学年平均500点を超えることを目指している。具体的な対策として、英語教員中心となって監督を行い、校内で年4回 TOEIC IP TEST を実施している。また、後援会からの補助により本科3年生および本科4年生の全員受験を行っている。シンガポール語学研修（本科3年生対象）参加応募資格に今年度より TOEIC350点以上を追加した。グローバル・エンジニアプログラム（本科5年生対象）参加資格は TOEIC スコア500点以上である。

3-1-3. グローバル・エンジニアプログラムの推進

グローバル・エンジニアプログラムは5年後期に最大1学期間の海外留学（提携校での研究等）であり、参加学生には前述のように外国人教員を含めた英語教員によるスピーキング対策、外国人専門教員による志望動機書添削などを行い、国際コミュニケーションのためのマインドを育成している。

4. 「令和4年度 国際交流」における問題

「令和4年度 国際交流」の問題点は、国際交流協定校の量的問題および質的問題が挙げられる。また、戦争による燃料サーチャージの上昇、円安および外国滞在施設確保問題により、「令和4年度海外技術研修希望学生」は最終的に3名であったことが挙げられる。

次に、国際交流担当に関連した体制についてであるが、本校には国際交流センターは設置されていない。つまり、常勤の専従担当教員および常勤の専従担当職員は存在しないので、今年度、国際交流委員長（私）は国際交流業務に追われて、午前中一杯、3カ国（具体的にはアジア2カ国およびヨーロッパ1カ国の協定校）への英語メールを書き終えてから午後からの英語授業に臨むような毎日であり、国際交流委員会の強化および専従常勤担当教員および専従常勤担当職員の配置が望まれる状況であると思われる。また、寮の宿泊施設の条件により、短期留学生受入が左右されることが想定されるので、寮の宿泊施設についても改善が望まれる。

最後に SDGs を指標とする昨今の国際状況においては、国際交流推進のためには、SDGs 関連分野の研究強化が望まれる。特に秋田は洋上風力発電で先進地であるので、各系2件の研究に加えて、今後一層の研究の推進が望まれる。

5. まとめ

結論として、海外技術研修の強化というビジョンを達成するためには以下3点の強化を提言する。

- ・国際交流派遣受入数の強化、つまり、国際交流協定校増および海外技術研修希望学生増
- ・リソースの強化、つまり、国際交流委員会委員増および国際交流センターの設置および短期留学生受入のための寮の宿泊施設容量増
- ・国際交流研究分野の強化、言い換えるならば、洋上風力発電を含めたグリーン・エネルギー関連研究の強化による、本校学生派遣増および短期留学生受入増

これらの強化を念頭に置いて、2023年度の国際交流活動を継続することで、海外技術研修に基づく本校学生派遣および短期留学生受入を実現させる予定である。

参考文献

令和4年度東北・北海道地区国際交流担当者協議会議事要旨